

男女共同参画シリーズ

男女共同参画シリーズの連載を振り返って

Review of Gender Equality Series

1 はじめに

男女共同参画シリーズは、男女共同参画社会に関する技術者への意識啓発を目的として、男女共同参画に関わる政府機関、大学、高専、企業の関係者に連載を執筆していただいた。

連載の終了に当たり、男女共同参画推進委員会の活動、各回の要旨を改めて紹介し、委員会の今後の活動方針を考えたい。

2 男女共同参画推進委員会の活動

男女共同参画推進委員会は、男女共同参画推進の社会的背景・要請を受けて、次に掲げる事項を目的に、2011年に設立された。①女性技術士の増加を図るための積極的な広報活動の展開、②女性技術者のキャリアパスにおける技術士資格の優位性の明確化による技術士の知名度向上と共に企業における男女共同参画推進への協力、③新成長戦略における科学技術による豊かな社会の形成、及び男女共同参画社会形成推進に向けた支援活動の展開

この目的のために、次のような活動を行っている。

- 1) 技術者・技術士を目指す女子学生・女性向け懇話会（技術サロン）の開催
- 2) 企業内女性技術者へのキャリアモデルとしての技術士取得を推進する広報活動
- 3) 男女共同参画学協会連絡会等、関係団体との連携・協力

3 連載を振り返って

(1) 科学技術分野における女性の活用促進について
文部科学省 科学技術・学術政策局
人材政策課長 松尾泰樹氏

我が国の女性の研究者・技術者や管理者・指導者の割合は諸外国と比較してなお低い水準にある。文部科学省では、「女性研究者研究活動支援

事業」において、女性研究者の研究と出産・育児等との両立を図るための環境整備を行う大学や研究機関に対して支援している。また、女子中高生の理系進路選択を促進するため、ロールモデルの提示、実験教室、出前授業の実施等の取り組みを実施している。

(2) 女性が働きやすい環境を整え、社会に活力を取り戻す
内閣府 男女共同参画局

推進課長 小林洋子氏

我が国の女性の労働力率は、いわゆる「M字カーブ」を描いている。管理的職業従事者に占める女性の割合は11.2%と、国際的に見ると低水準にとどまっている。

政府は、①安倍総理から経済3団体に対する女性の活躍推進に向けての要請、②女性の活躍促進に取り組む企業への助成金や税制上の措置の活用等による支援、③理工系分野に興味がある女子高生・女子学生の進路選択を応援する「理工チャレンジ（リコチャレ）」、④男女がともに仕事と子育てを両立できる環境の整備に取り組んでいる。

(3) 高専の女性技術者育成への取り組み

(独) 国立高等専門学校機構 香川高等専門学校
高専機構 併任 教授 内田由理子氏

高等専門学校の女子比率18%程度であり、女子卒業生も38,000人以上となった。(独) 国立高等専門学校機構では、2011年に「男女共同参画宣言」「男女共同参画行動計画」を策定し、男女共同参画を推進している。「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信」や高専女子フォーラムが注目される。

(4) 工学系大学における男女共同参画の推進

国立大学法人名古屋工業大学
学長 鵜飼裕之氏

機械工学科では、女子学生増加のため女子卒での推薦入試などの取り組みを実施し、女子比率11%まで向上した。全学的な支援機能および体

制の抜本的強化のために、男女共同参画推進の企画・立案等を行う教職一体組織である「男女共同参画推進センター」の設置を計画している。その中で「OG人財バンク〈i-ネット〉」の構築および「交流サロン〈i-カフェ〉」の新設を予定している。

(5) 女性技術者のエンパワーメントのためのポジティブ・アクション

芝浦工業大学 学長補佐 兼大学院

工学マネジメント研究科 教授 國井秀子氏

企業の成長にとって人材の多様性確保の視点での女性のエンパワーメントは、極めて重要な問題である。一つの対策として一般社団法人技術同友会は、女性技術者活躍に向けてのポジティブ・アクションについての以下の提言を発表した。①女性のエンパワーメントのためのポジティブ・アクションの必要性、②女性技術者に関するデータ収集と公開、③女性の理工系進学支援、④トップ、中間管理職のリーダーシップ強化

(6) すべての女性が輝く社会を目指して

内閣府男女共同参画局 推進課課長補佐

湯澤麻起子氏

安倍内閣では「すべての女性が輝く社会づくり」を最重要課題の一つに位置付け、早急に実施すべき施策を「すべての女性が輝く政策パッケージ」として決定した。内閣府男女共同参画局は、「女性のチャレンジ応援プラン」をとりまとめた。現行の第3次男女共同参画基本計画での取り組みの成果と課題を踏まえ、2015年12月を目途に第4次基本計画を策定することを検討している。

(7) 技術士を目指す若手女性技術者としての挑戦

東洋エンジニアリング（株）米倉有美氏

JABEE認定課程の化学工学を修了後、プラントエンジニアリング会社に入社した。社内には大勢の外国籍社員が働いていて、日本人であることは、個性の一つのカテゴリーである。女性であることも大勢から見て自分が唯一持っている特徴と捉え、それを有効に業務に活用して組織に貢献したい。付加価値を高める方法として、社内で取得を求められている米国のPEと技術士の資格の取得を目指している。

(8) 女性技術者・理工系女子学生の支援活動を続けてー技術サロン報告ー

男女共同参画推進委員会委員 石田佳子氏

「技術サロン」は男女共同参画推進委員会が年4回開催している理工系女子学生・若手女性技術者向けの懇話会である。内容は自己紹介および技術士制度の説明と、キャリア形成や職場環境、学業などに関する質問・疑問などを主とした意見交換会の2部構成である。参加者からは極めて高い満足度を得ているが、女性技術者育成の課題も見えてきた。今年3月で通算25回となり、開催状況と提言をまとめた小冊子を作成・配布した。

4 今後に向けて

連載では、男女共同参画に向けたさまざまな施策が各機関で行われていることが紹介された。これらの事例や、技術サロンから見えてきた課題を踏まえて、今後、女性技術者育成、ひいては女性リーダーや女性技術士増加に向けて、以下の取り組みを発展させる予定である。

①技術サロンをベースとした出前サロン、外部団体への参加協力（夏の学校、リコチャレ、高専女子フォーラムなど）、②女性会員・準会員のネットワークづくり、③Web等による情報発信

また、2015年は、男女共同参画に関するCPD教材の発刊、2016年は横浜市で開催される65周年技術士全国大会において、男女共同参画に関する分科会の準備を中心に活動する。

委員会は、男女共同参画社会に向き合い、男性女性問わず、ひとりの技術者として充実した人生を歩むことができる社会の推進を目指したい。このためには、委員会にとどまらず日本技術士会全体の取り組みとして、男女共同参画に関する種々の情報を社会に発信し続けることが重要である。（備考）執筆者の所属は連載当時のものである。

嶋田 弘僧（しまだ こうそう）
技術士（情報工学／総合技術監理部門）

理事 男女共同参画推進委員会副委員長
富士通（株）
e-mail : shimada.kozo@jp.fujitsu.com

